



# げんきっこ

R4・11・18

## おたんじょうび おめでとう

♡10・11がつの誕生日会♡

### 「忍辱持久」

♡がまんする心をそだてる♡

努力をすることによって、毎日の生活を充実させることができる。目標は遠くてもじっくり取り組むようにしよう。



10名の子どものお祝いをしました。自分で一生懸命自己紹介したり、おおきくなったらなりたいのものを発表してくれました。お楽しみは中川先生が「ふしぎな電子レンジ」のパネルシアターをしてくれ、レンジに入れたからっぽのお皿に美味しそうな料理が入って出てくる様子にビックリしていた子どもたちでした。

今年も残すところあと、1ヵ月と少しとなりました。子どもたちにとってはクリスマスや年末年始のおでかけなどで楽しみも多いですが、年の瀬で何かと忙しくなってくる大人はまさに「師走」ですね。大人も子どもも体調を崩しやすくなり、いつもならもらわない子どもの感染症がうつってしまうことも多いです。手洗い・うがいを欠かさず、疲れが残らないようしっかり身体を休めるようにして下さいね。

年末年始のお休み前には、布団や着替えの持ち帰りをします。記名やサイズの確認をして休み明けに持って来てください。

12月28、29日には毎年登園する子どもが減少で給食の食材の調整が困難な状況です。また、食品の発注の変更は早めに知らせてほしいとの業者からの依頼がありましたので、28、29日の登園について今年から人数の把握をする為、事前にお尋ねさせて頂きたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。12月に文書の配布を致します。



### 気をつけたい！感染性胃腸炎

	ノロウイルス	ロタウイルス
流行時期	11月～2月頃がピーク	3月～5月にかけて増加
注意すべき年齢	年齢に問わず感染します。特に子どもやお年寄りには注	0～6歳の乳幼児が感染しやすく、重症化しやすい
主な症状	多くは突然の嘔吐から始まります。吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、食欲低下の症状が主です。発熱も見られます。	水のような白い便の下痢や、嘔吐を繰り返すのが特徴。他に発熱、腹部の不快感、腹痛等の症状が見られます。



感染してしまったら、水分・栄養補給を心がけながら、身体が回復するのを待つ対処治療が主になります。下痢止めを使うとウイルスが体内に留まり回復を遅らせることも。必ず受診をし、医師の指示に従いましょう。

#### 脱水症状のサイン

・おしっこ回数や量が減る ・皮膚やくちびるが乾燥している ・ぐったりしている

#### 汚物の処理

- ① マスクや手袋をつける
- ② 汚物が乾かないうちにペーパーで静かにふき取る
- ③ 汚れた箇所を次亜塩素酸ナトリウム(家庭用塩素系漂白剤でも可)で浸すようにふき取る
- ④ 水拭きを丁寧にする
- ⑤ 汚物や身につけたマスク等をビニール袋にいれ、密閉して廃棄する



もうすぐ発表会月です。クラスからは音楽に合わせた子どもたちの歌声が聞こえ始め、発表会で使う道具を共同制作で作ったりと楽しそうな様子がたくさん見られます。元気に発表会を迎えることができるよう、感染対策を園と家庭で協力して行っていきたく思いますので、ご協力宜しくお願い致します。

### 12月8日成道会

シャカ族の王子として生まれたシツダルタは大人になり、結婚し子どもを設けてなに不自由することなく暮らしていましたが、ある日「どうして人は殺し合いをするのだろうか、貧しさや病気で苦しむ人がいるのだろうか。どうすればみんなが幸せになれるのか。その教えをみつけ出すために勉強しよう」と城を出て修行の道に入りました。

王子は山の中で6年もの間、様々な苦しい修行を続け、身体は皮だけになり痩せてしまわれました。ある日にれんぜ河に入り身を清め、岸にあがった王子はスジャータという名の娘から牛乳をもらって元気を取り戻されました。王子としての楽しい生活と修行者としての苦しみの生活の両方を知っているシツダルタ王子はこの両極端の道を捨て、穏やかな気持ちで木の下に座り人々が幸せになれる道を考え続けられました。悪魔に邪魔されながらもこれを退散させ、7日目の東の空がキラキラと光っている気持ちのよい朝「これは仏さまを信じ拝むことだ」ということをお悟りになられました。12月8日の朝のことでした。その日から王子をお釈迦さまと呼ぶようになりこの日をお悟りの日「成道会」としてお祝いします。それは「物事の本当の正しさを知り、その正しさに従った生き方をすることで幸せになる」という考えでした。園で楽しく生活をするために必要なことや大切にしたい事を日々の生活の中で教え育んでいきます。

♡なかよくします ♡命を大切にします ♡食べ物を大切にします ♡道具を大切にします ♡生き物を大切にします ♡正しい言葉を使います ♡身近なことが生活の基準となっていることを心に受けいれていけるよう関わっていきましょう。